

第41回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和3年4月20日（火） 10:00～12:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、遠藤委員、折木委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、中須賀委員、名和委員

(2) 宇宙開発戦略推進事務局

松尾事務局長、岡村審議官、藤重参事官

(3) 関係省庁

内閣官房 国家安全保障局 安藤内閣審議官

外務省 総合外交政策局 宇宙・海洋安全保障政策室 倭島室長

軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課 鈴木首席事務官

防衛省 防衛政策局 戦略企画課 松本課長

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 「国連における「責任ある行動の規範、規則及び原則を通じた宇宙における脅威の低減」決議」について、資料1に基づき外務省より説明が行われた後、次のような議論が行われた。

○本決議を国際社会にどう浸透させるのか、国連事務総長報告後、どこを目指すのか。

●各国と連携しながら共通理解を醸成し、具体的かつ実効的な国際スタンダードの形成を目指していきたい。

○国連事務総長報告に続いて、有志国で枠組みを作ってはどうか。

(2) 「宇宙の軍事利用ルールの現状と今後の基準設定に向けた日本の役割」について、資料2に基づき青木部会長より説明が行われた後、委員からは次のような意見があった。

○責任を問うに当たって責任所在の明確化が技術的に難しい。また、日本自身の自助努力や米国等との協力が抑止になる。宇宙空間におけるSSAを推進すべき。

○Mission extension vehicleのような商用衛星が近づいてきて、いきなり衛星を乗っ取られたらどうするかということについて、基準作りやSSAでの監視を公表するといったことが重要ではないか。

(3) 「防衛省の宇宙政策の課題と現状」について、資料3に基づき防衛省より説明が行われた後、委員からは次のような意見があった。

○日米の役割分担が重要、一方で自律性も考えるべき。

○自衛隊の宇宙に関する人材が定着するような人事上の配慮や先を見据えた組織作りが必要。

(4)「令和2年度机上演習(TTX)成果報告等」について、資料4に基づき内閣府より説明が行われた後、委員からは次のような意見があった。

○宇宙システムだけのインシデントを考えにくいことから、複合的な事態を考えないといけない、このため、政府としての方針がないと演習の意味がないため、全体をとりまとめる部門の参加が必要。

以上